

八王子市夢美術館 EXHIBITION

みどろ
 大津絵といえば、大胆な筆致で描かれたユーモラスな表情のキャラクターたちがよく知られていますが、《阿弥陀仏》など、初期に描かれた仏画題の作品も魅力的です。古来から続く荘厳な仏教絵画の世界とは異なる、素朴で穏やかな表情の仏たちに、当時の人々の心は大変癒されたことでしょう。本展では、親しみやすく可愛らしい神仏を描いた大津絵も展示していますので、是非会場でご覧ください。



大津絵《阿弥陀仏》
 神戸女子大学古典芸能研究センター蔵

めぐりあう 大津絵

笠間日動美術館・小糸源太郎コレクションと
 神戸女子大学古典芸能研究センター！
 志水文庫の大津絵

9月15日金～
 11月5日日

10:00～19:00
 (ただし、入館は18:30まで) ※月曜休館(月曜が休日の場合は開館し、翌平日が休館)

【料金】一般 800円 学生・65歳以上400円
 ※中学生以下無料
 ※ラトラトラ友の会会員は2割引

江戸時代、大津追分周辺で旅人へのお土産として描き売られた民画・大津絵。本展では、笠間日動美術館、神戸女子大学古典芸能研究センターがそれぞれ所蔵する、個性が異なる大津絵コレクションの展示を通じ、時を越えて人々を魅了する大津絵の魅力に迫ります。

大津絵《金魚の念仏》公財団八王子日動美術館蔵



連載 夢美術館の宝庫

八王子市夢美術館の収蔵作品をご紹介します。

《夜の舞》夜に舞う天使―堀井英男のブル―

水面を思わせる穏やかなブルーと漆黒の空間に浮かび上がる「天使」。本作は銅版画家・堀井英男と詩人・田中清光による、10点の銅版画と詩編からなる詩画集『幻花』のヴァリエーションです。

闇のなかで 天使の似姿になぞらえた肉体は
 ふきのぼる光に溶けた 悲嘆の叫びは離散した星屑のあいだに消え
 ―後略― (田中清光『幻花』より)

この頃の堀井はそれまでの原色を多用した作品から、淡い青など柔らかい色彩の表現へ変化した時期でした。田中清光の詩は難解で、単純なイメージではありませんが、詩の象徴性と神秘的な風合いを帯びてきていた堀井の作風とが相まって、美しい幻想的な世界が広がっています。

1930年に水郷・茨城県潮来市に生まれ、東京藝術大学で油絵を学んだ堀井英男は、卒業後ほぼ独学で銅版画を習得します。1973年からは1994年に60歳で亡くなるまでの20年あまりを八王子で過ごしました。



堀井英男《夜の舞》
 1984年 銅版画(エッチング、アクアチント)

#お仕事ファイル

財団のお仕事をご紹介します！

学園都市センター
 舞台スタッフ



「正解がないからこそ最高の演出空間を届けたい」

学園都市センターのイベントホールは、セミナーや講演会などの学術的なものから、ダンスや楽器の練習、音楽会や演芸会などの公演まで、様々な目的で幅広い年代の方にご利用いただいています。可動式観客席や高さ調節ができる13分割の可変式舞台、大型

プロジェクターも備えています。多目的に利用できる施設だからこそ施設管理には確かな技術が求められます。私たち舞台スタッフは音響、舞台、照明のそれぞれの専門技術を持った3人体制で協力しながら、お客様が求める演出空間を目指しています。

インタビューしました！

どのような思いでお仕事をしていますか？

舞台スタッフの仕事は、イベントの印象を左右する重要な役割を担っているため、お客様の意図を汲み取り、求められる演出空間をつくり出せるよう日々励んでいます。この仕事には正解がないという難しさがあります。そのため、施設の機材を使いこなし、時代の変化に合わせてお客様に最適なお提案ができるよう、視野を広げるための勉強を続けています。劇場技術者としての技能を活かしてお客様の期待に応えられる喜びを、これからも感じ続けていきたいです。(学園都市センター 舞台スタッフ)

はちびと

八王子の文化を支えるまちの人々をご紹介します！

陶芸家 上島かな子さん



調麗窯は東京・八王子、陣馬山麓にある陶芸窯。1966年の築窯以来、多くの人の創作の場として親しまれてきました。作品制作、陶芸教室、ギャラリー運営に奔走している上島さんは美術大学で建築やインテリアデザインを勉強していましたが、社会人になってから陶芸の魅力に釘付けになりました。

上島さんにとって、陶芸の魅力とは何でしょうか。

自分の手で土をさわり、ダイレクトにカタチになる、そんな土の自由さが魅力です。一番の道具は自分の手！自分の意図したとおり作品ができあがるのも達成感がありますし、偶然的な仕上がりになる面白さもあります。

陶芸家である上島さんにとって、

上恩方はどういう印象ですか。

鳥の声や風の音が聞こえる、静かな場。そんな上恩方で、土とふれあう時間は、とても豊かな時間です。陶芸教室にいらつしやる方も「東京とは思えない」と驚かれます。都心からのアクセスは良いとは言えないですが、それでもわざわざ教室に足を運んでくださる方がいらつしやるのは、こうした豊かな時間が魅力だからだと思います。

今後の活動について教えてください。

作家としての創作活動、陶芸教室、ギャラリー運営をしています。調麗窯をひらいた祖母の代から続く陣馬山麓アトリエ展は、これからも「横のつながり」を大事にしながら続けていきたいと思っています。

voice

財団主催公演の来場者アンケートから、感想をご紹介します。

6/3(土)・4(日) いちょうホール 大ホール 車人形三座競演

- ・三座の公演を比較しながら観ることができる、大変貴重な機会でした。
- ・演技のなかに、郷土にこれからの文化を伝えていこうとする熱意が感じられました。

6/17(土) いちょうホール 大ホール 森 麻季&錦織 健 デュオリサイタル

- ・カジュアルな雰囲気、本格的な歌が聴けて、リラックスできました。演奏者の楽しそうな姿が印象的でした。デュオならではの音楽も良かったです。
- ・もともとオペラが好きですが、さすが一流の森 麻季さんと錦織 健さんは声の響きが大変美しく、感動しました。